

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804
那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173(代)
FAX.098-882-5688

結碧沖繩

第68号

メール o.fukusi@okinawa-j.jp ホームページ <http://www.okinawa-j.jp/>



新装したよみたん救護園（上空写真）

平成27年5月28日の理事会におきまして理事長に就任いたしました。我が国の社会福祉が大きな変革期を迎えているこの時期に理事長の職に就くにあたり、その職責の重さを痛感しております。

昭和57年12月6日が、私が事業団職員としてのスタートの日でありました。営業系の仕事からの転職で、すべてが初体験でとまどいの日々だったことを鮮明に覚えています。

施設利用者の皆さんと出会い、福祉施設で働くことの厳しさや辛さ、楽しさや喜びを教えてくださいました。また、一緒に働いた多くの先輩・同僚職員の皆様から福祉施設職員としての心構えを学び、充実した日々を過ごしていましたが、平成18年度からの民営化により事業団を取り巻く環境が大きく変わりました。

民営化と同時に事務局事務部長に配属され、運転資金の調達に奔走し、施設管理、法人の財務・労務管理、5カ年経営計画の策定と目の回る変化に対応し続ける中でも、各施設は利用者のサービスの向上に取り組み、新たな事業展開や老朽施設の改築など、経営計画に基づき確実になし遂げたことはひとえに全職員一丸となった頑張りであったと感謝しております。

今社会福祉法人のあり方について、イコールフットイング、内部留保、公益的活動、ガバナンス、経営の透明性など様々な改正が進められています。社会福祉法人が社会福祉事業をとおして我が国の福祉に大きく貢献してきたことは紛れもない事実であります。この改正は裏を返せば社会福祉法人が付加価値の高い福祉サービスの提供、地域福祉への貢献に関して大きな期待の表れであると思います。

今後、変化をおそれず、より一層地域にとつてなくてはならない存在となるよう、職務に邁進し「沖縄県社会福祉事業団」だからできることを念頭に置き、その使命を果たすべく努力する所存です。今後さらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



理事長就任挨拶

理事長 金城 敏彦
きんじょう としひこ

平成26年度 決算報告

資金収支計算書

(自)平成26年4月1日 (至)平成27年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		決算額
大区分		
事業活動	事業活動収入計	4,045,695
	事業活動支出計	3,774,470
	事業活動資金収支差額	271,225
施設整備等	施設整備等収入計	554,406
	施設整備等支出計	1,155,113
	施設整備等資金収支差額	△600,707
その他の活動	その他の活動収入計	395,607
	その他の活動支出計	2,261
	その他の活動資金収支差額	393,346
当期資金収支差額		63,864
前期末支払資金残高		746,476
当期末支払資金残高		810,340

事業活動計算書

(自)平成26年4月1日 (至)平成27年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		決算額
大区分		
サービス活動	サービス活動収益計	4,028,473
	サービス活動費用計	3,983,576
	サービス活動増減差額	44,897
サービス活動外	サービス活動外収益計	17,222
	サービス活動外費用計	0
	サービス活動外増減差額	17,222
経常増減差額		62,119
特別増減	特別収益計	590,165
	特別費用計	557,307
	特別増減差額	32,858
当期活動増減差額		94,977
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	1,699,995
	当期末繰越活動増減差額	1,794,972
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	364,718
	その他の積立金積立額	0
	次期繰越活動増減差額	2,159,690

貸借対照表

平成27年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,233,961	流動負債	558,890
		固定負債	664,433
徴収不能引当金	△11,278	負債の部合計	1,223,323
固定資産	8,618,325	純資産の部	
基本財産	6,247,280	基本金	10,000
		国庫補助金等特別積立金	5,175,520
		その他の積立金	1,283,753
その他の固定資産	2,371,044	次期繰越活動増減差額(うち当期活動増減差額)	2,159,690(94,977)
		純資産の部合計	8,628,963
資産の部合計	9,852,286	負債及び純資産の部合計	9,852,286



金城理事長あいさつ



比嘉園長あいさつ



ご来賓あいさつ



利用者と職員が賑やかに会場を盛り上げました



落成を祝してカチャーシー

5月29日、よみたん救護園改築落成式典・祝賀会が当園地域交流スペースで盛大に行われました。式典には沖縄県、各市町村、来賓並びに多くの関係者の方々にご臨席いただき、新装した施設をお披露目いたしました。今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

よみたん救護園落成式

平成26年 事業実績報告

1 利用者に対する姿勢

人権の尊重

① ① 経営理念・経営方針等の周知
全施設において、明文化された経営理念・方針の掲示を継続すると共に、全職員が同じ価値観・方向性を持ち業務に就けるよう職務会・職場内研修・職員ヒヤリング等をおして経営理念等の職員周知を図った。

② 倫理綱領自己評価の実施及び倫理委員会機能の強化
各施設は、倫理綱領自己評価を年2回実施、倫理委員会で分析し課題解決のための対応策を決定し、職員の人権擁護意識の向上を図り適切な利用者支援に繋げた。

③ 苦情解決・相談体制の実効性ある運用
法人の苦情対応要綱を制定し、一定のルールに沿って解決に向ける体制を整え、苦情への適切な対応強化を図った。

① ② リスクマネジメント体制の充実
実績会議において、介護事故の内容や事故が起こる要因の分析、事故が起こった際の対策について検証すると共に、介護員連絡会にて誤薬事故の発生状況を説明し、与薬支援のロールプレイを行う等、直接支援する職員の意識の向上を図った。

② 第三者による評価の受審
沖繩療育園において、第三者評価

を受審した。評価の高い点は、福祉サービスの実施計画の策定及び記録が適切に行われていること。改善点は、多床室でのプライバシー確保のためのカーテンの設置が挙げられ、改善取組を行った。

① ③ 社会、地域との関係の継続
地域での生活を支えるサービスの充実
あけぼの学園、北嶺学園、都屋の里は、相談支援事業所を開設し在宅の障害児者のサービス等利用計画書の作成を行うと共に、在宅ニーズの情報の収集を図った。

① ④ 生活・ケア環境の向上
老朽施設の全面改築、より個別支援に近い環境の整備等
よみたん救護園は、全面改築整備事業が完了した。

② 社会に対する姿勢
公益的取組の推進
社会福祉法人に求められる役割の遂行
事務局は、生活困窮者自立支援法に基づく支援事業について各圏域に情報を発信した結果、宜野湾市より一時生活支援事業実施の依頼があり、具志川厚生園にて事業を開始することを決定した。

イ 漲水学園は、生活困窮世帯児童への学習支援を宮古島市及び関係機関との連携により実施することを決定した。

② 苦情・評価等の公表・説明
各施設は、寄せられた苦情・要望等に対する対応策を施設内に掲示、事務局は各施設に寄せられた苦情・要望等に関する内容をホームページで公表した。

③ 家族とのコミュニケーション
各施設は、提供するサービス内容について、支援計画の見直し時や家族会総会等で説明を行った。その際、家族からの意見や要望も聴取し、利用者本位のサービスの充実に努めた。

① ③ 人材に対する姿勢
職員処遇の向上
労務管理体制の構築
沖繩療育園では、看護師の労働条件の向上や職員確保を目的に看護師の夜勤を三交代制から二交代制へ移行する取組を試行した結果、現行どおり三交代制を継続することとなった。

① ② 職員教育の充実
研修計画の作成及び実施
労働局の補助金を活用し、中核職員の能力向上研修を行い、人材育成を図った。

④ マネジメントに対する姿勢
法令遵守の徹底
コンプライアンス体制の強化
各施設は、9月と2月に法令遵守委員会を開催し、施設運営に係る関係法令の確認、法令違反事項については早期の改善を図った。

② 組織統治の確立

① 理事・監事・評議員の経営参画の強化
事務局は、理事・監事・評議員に対し上半期・下半期の実績を報告すると共に、コンサルタントを活用し福祉の動向や法人のあるべき姿に関する説明会を開催した。

① ③ 財務基盤の安定
養護老人ホームの在り方に関する検討
事務局は、第6期介護保険計画の中で養護老人ホームを特定施設として位置づけるよう県と市町村へ要請した。

イ 沖繩県養護老人ホームの在り方検討委員会へ委員を派遣し、盲養護老人ホームの設置については積極的に協力する姿勢であることを発信した。

② 未収金管理の強化
介護施設及び障害施設での未収金については、各施設で徴収取組の体制を確立し、長期滞納者については、裁判所への調停申し立てや弁護士依頼による対応を行った。

① ④ 経営管理者の役割の遂行
経営理念等の明示
家族に対しては、支援計画策定時や家族会の会合に参加し経営理念等を説明した。

② 次世代の育成
法人の中核的な人材の強化を図るため、労働局の助成金を活用した中核職員研修を継続実施し、次世代の人材育成に取り組んだ。

常務理事就任挨拶



常務理事
兼事務局長

いしかわ
石川 俊雄

5月28日の理事会で常務理事に就くこととなり、大変身の引き締まる思いであります。

生活指導員や出納員として施設勤務が18年、事務局勤務が14年となり、この間には、平成18年度からの自主経営開始という大きな転換点にも事務局職員として自主経営後の収支試算、就業・給与規程等の全面改正、将来不安から退職した相当数の職員の後任確保等を経験しました。当時は自主経営へのハードルが高かったぶん「利用者への想い」「事業団への想い」が強まり、全職員が奮い立ちあの難局を切り抜けたと考えています。

自主経営開始以降、福祉事業、社会福祉法人を取り巻く状況が著しく変化し法人経営の厳しさが増しておりますが、現在進めている経営改善の諸取組を更に強化し施設を利用される皆様、地域の皆様から信頼される組織で有り続けられるよう力を尽くしたいと考えおります。今後とも、多くの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

介護課新設



介護課長

やまおか
山岡 笑美

介護課新設にあたり、これから始まる人事考課を基に職員個々の課題を抽出していきながら職員教育のあり方を検討する。また認知症ケアにおいても、研修派遣を実施していくと同時に、OJTを強化し利用者サービスにつなげていきたい。これまでの中核職員研修やあり方検討委員会等で学んだことを生かし、介護現場における課題点をクリアーにしていきながら、介護の質の維持・向上を図りつつ効率よく仕事ができる働きやすい職場づくりに取り組んでいきたいと考えています。

職員の話らい



婦人保護施設
うるま婦人寮
生活指導員

かなおか
知花 尚子



夏の到来を感じさせる季節となりました。寮の小さな花壇には、夏の日差しに負けじと、インパチエンスやペントラスの花々が咲き誇っています。当寮のシンボルツリー（サガリバナ）が開花の時期を迎えます。季節の植物を通し、来寮者・入所者の方々に癒しの空間を提供できるように、職員一同努力して行きたいと思っております。

親愛なるウォルト・ディズニールーム

養護・特別養護老人ホーム
具志川厚生園

みづもと
宮里 美奈子



17歳の時に修学旅行で初めて訪れたあの日からディズニールームの虜になってしまいました。あなたの「与えることは最高の喜びだ」「他人に喜びを運ぶ人は、自分自身の喜びと満足を得る」の言葉やイマジネーションは、私の心に熱い思いと仕事に対するレスピを与え続けています。次はいつ夢の国へ行こうかと考えるだけで、ハピネスを与え続けることができるディズニールームは素晴らしいです。親愛なるウォルト・ディズニールームのように信念と情熱を持ち続けられる人で有りたいと思っております。

植物のパワーで笑顔に



養護・特別養護老人ホーム
宮古厚生園
管理栄養士

おくはま
奥濱 智子

日々少しずつ、けれど着実に成長していく草花をみていると、せっかちな私の性格を落ち着かせてくれる、そんな草花を育てることが好きで一鉢から始まったプチ園芸です。草花を眺める利用者や職員の笑顔をみると一鉢、また一鉢と増えてきました。



利用者や家族、職員の皆様が施設で生き生きと育つ草花から元気をもらい、また、私自身も相性の合うプチ園芸を続けて、パワーアップしていけたらと思っております。

「グループホームあけぼの」開所



障害者支援施設
あけぼの学園
園長

あけぼの
友利 勝政

4月1日待望のグループホームあけぼのが開所しました。このグループホームは、平成25年の改正障害者総合支援法（略称）に基づく、ケアホーム（共同生活介護）がグループホーム（共同生活援助）に一元化された介護サービス包括型のグループホームとなっております。

利用者定員は10名、各居室とも洗面台を備えた個室となっており、トイレも2室で共用するなど利便性・居住性に配慮し、防災設備も備えたバリアフリー、オール電化仕様の住宅となっております。

障害者施策においても障害者の施設、病院等からの地域移行が促進される中、当ホームの利用者が地域の皆様と交流を持ちながら、日常生活または社会生活を地域の一員として送っていける住まいの場として、利用者が生き生きとした自立生活が送れるよう支援してまいります。

